

平成28年度富士見市国民健康保険特別会計 (事業勘定) 予算 (概要)

1 予算概要

(1) 予算編成概要

平成28年度当初予算は、大幅な被保険者数の減少により、医療給付費、後期高齢者支援金、共同事業拠出金の各項目において、減額を見込んだ。これにより、前年度予算総額と比べ大幅な減額予算編成となった。

(2) 予算規模

平成28年度国民健康保険特別会計(事業勘定)当初予算額は、123億7,763万7千円となり、前年度当初予算額に比べ6億2,661万円の減(△4.82%)となっている。

これは、主に保険給付費の減額が、大きな要因である。

2 歳入予算の主な特徴

(1) 国民健康保険税

一人当たりの調定額は、横ばいであるが、被保険者数の大幅な減少により、前年度より1億3,335万4千円減(△5.48%)の23億210万1千円を見込んでいる。

(2) 国庫支出金

国庫支出金では、療養給付費等負担金について定率の国庫負担割合(32%)が交付されるが、医療費の減に伴い減額となる。また、国庫補助金の財政調整交付金は、平成27年度の対象事業と過去の決算の実績額等を考慮し算出した結果、前年度より、2億712万1千円減(△8.83%)の21億3,960万3千円を見込んだ。

(3) 療養給付費交付金

平成26年度で退職者医療制度が廃止されたことにより、退職被保者の新規適用がなくなり人数が減少していくことから、5,957万1千円減(△26.24%)の1億6,748万8千円を見込んだ。

(4) 前期高齢者交付金

前期高齢者交付金は、前期高齢者加入率の伸び等により、前年度より 220 万円増 (0.07%) の 29 億 6,997 万 3 千円を見込んだ。

(5) 県支出金

高額医療費共同事業及び特定健康診査事業に係る県の負担分並びに県財政調整交付金であり、一般被保険者の医療費等に充てられる。本年度は、保険財政共同安定化事業の拠出超過が見込まれず、8,309 万 5 千円減 (△13.67%) の 5 億 2,496 万 5 千円を見込んだ。

(6) 共同事業交付金

高額医療費共同事業と保険財政共同安定化事業の交付金であり、保険者の財政運営の不安定を緩和することを目的としているもので、県内の全市町村被保険者を対象としている。連合会の試算値を基に、前年度より 9,752 万 3 千円増 (3.48%) の 28 億 9,930 万 6 千円を見込んだ。

(7) 繰入金

一般会計からの繰入金は、保険給付費の減及び共同事業拠出金等の減により、法定外分で前年度 (10 億 8,769 万 3 千円) より 2 億 3,260 万 6 千円減の、8 億 5,508 万 7 千円を、また法定内分では、保険基盤安定繰入金が、前年度 (2 億 9,548 万 9 千円) より 1,930 万 2 千円増の、3 億 1,479 万 1 千円となり、合計で前年度 (15 億 4,565 万 3 千円) より 2 億 4,737 万 5 千円減 (△16.00%)、総合計で 12 億 9,828 万円を見込んだ。

3 歳出予算の主な特徴

(1) 総務費

マイナンバーの導入に伴うシステム修正委託の減等により、前年度より1,399万1千円減(△20.49%)の5,428万6千円を見込んだ。

(2) 保険給付費

一人当たりの医療費は増加傾向にあるものの、被保険者数が大幅に減少するため、総額としては減額となっている。4億4,894万7千円減(△5.93%)の71億2,487万5千円を見込んだ。

(3) 後期高齢者支援金等

後期高齢者医療制度への保険者の支援金は、被保険者数は減少するものの、一人当たり負担額の増に伴い増加傾向にあるが、平成26年度の精算は交付超過となり、相殺すると、前年度より7,808万9千円減(△4.9%)の15億1,481万9千円を見込んだ。

(4) 介護納付金

40歳から65歳未満の2号被保険者分として社会保険診療報酬支払基金へ支出するもので、被保険者数の減少により、前年度より2,806万8千円減(△4.76%)の5億6,141万4千円を見込んだ。

(5) 共同事業拠出金

高額医療費共同事業、保険財政共同安定化事業に要する費用に充てるため、国民健康保険団体連合会へ納付する拠出金(県内全ての市町村国保保険者が埼玉県国民健康保険団体連合会に拠出する)。保険財政共同安定化事業拠出金は、被保険者数の減少等により、前年度より6,391万9千円減(△2.16%)の28億9,741万9千円を見込んだ。